

福島第一原子力発電所 2号機原子炉建屋排気設備における空气中放射性物質の核種分析結果

参考値

(データ集約：12/24)

採取場所	* 2号機原子炉建屋排気設備 (排気フィルタ入口)				2号機原子炉建屋排気設備 (排気フィルタ出口)		②炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
	2015年12月17日 10時56分～12時56分		2015年12月17日 19時57分～21時52分		2015年12月17日 10時43分～12時43分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	2.5E-04	0.13	2.1E-06	0.00	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	1.0E-03	0.33	8.6E-06	0.00	ND	-	3E-03

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

※ 0.0E-0とは、 0.0×10^{-0} と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

2号機原子炉建屋排気設備（排気フィルタ入口）における検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約2E-7Bq/cm³、Cs-134が約3E-7Bq/cm³、Cs-137が約5E-7Bq/cm³。

粒子状のI-131が約1E-6Bq/cm³。

2号機原子炉建屋排気設備（排気フィルタ出口）における検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約2E-7Bq/cm³、Cs-134が約3E-7Bq/cm³、Cs-137が約5E-7Bq/cm³。

粒子状のI-131が約1E-7Bq/cm³、Cs-134が約2E-7Bq/cm³、Cs-137が約3E-7Bq/cm³。

* 1回目の分析結果が、従来の分析結果と比較して高かったことから、2回目の試料採取分析を実施。